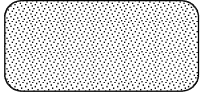


海産クロレラ（ナンノクロロプシス）の培養の方法

- 海産クロレラ培養セットに同封されているもの
(出講社の海産クロレラ培養セット <http://seibutukyouzai.jimdo.com/>)

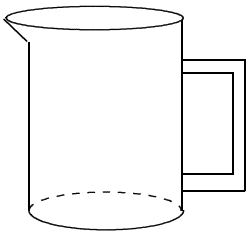
濃縮培養液のもと-N1

濃縮培養液のもと-N2

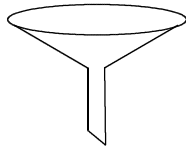


生海産クロレラ× 2袋

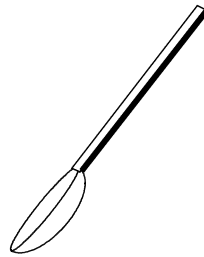
- ご自身で準備していただくもの



1000mL (cc) 計量カップ
(500mLでも可)



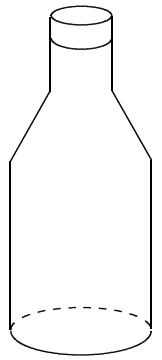
ロート
(漏斗)



計量スプーン10mL用
か、もしくは15mL用



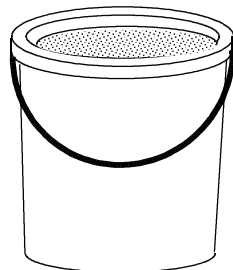
× 4



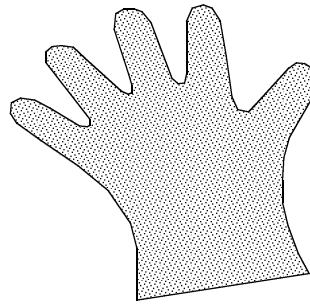
500mL以上のペットボトル4本と
クロレラ培養用のペットボトル2L用数本



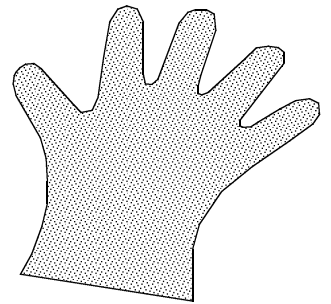
人工海水のもと



2~3日くみ置きした水道水



ビニール手袋

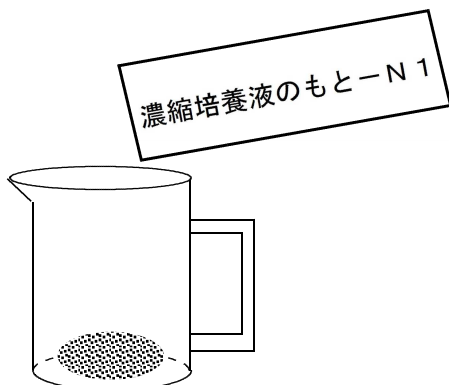


【注意】濃縮培養液のものと成分が手に付着しないように、以下の作業は、できればビニール手袋をはめて行ってください。

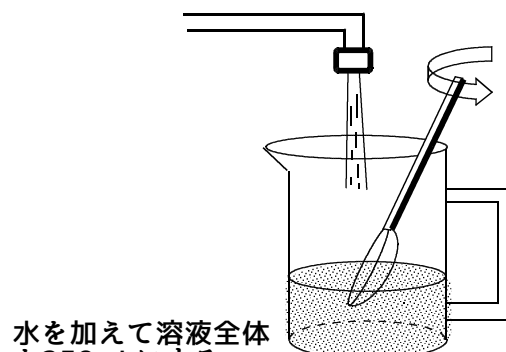
1 濃縮培養液の作成

ア「濃縮培養液-N1」をつくる

1. 計量カップに「濃縮培養液のもと-N1」をすべて入れる。

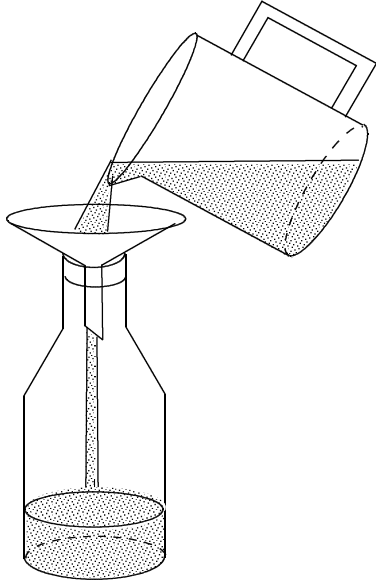


2. 「濃縮培養液のもと-N1」を入れた計量カップに水道水を加えながら溶かし、溶液全体を250mLにする。



水を加えて溶液全体を250mLにする

3. 2で作成した溶液をロート（漏斗）を使って、こぼさないようにして500mLペットボトルに流し入れる。これを「濃縮培養液-N1」とします。



イ「濃縮培養液-N2」をつくる

「濃縮培養液-N1」と全く同じ方法で、「濃縮培養液のもと-N2」を使って、別のペットボトルに「濃縮培養液-N2」を作成します。

2 人工海水を作る

海産クロレラを培養するペットボトルを使って人工海水を作ります。人工海水の濃度は、3.0%程度にします。3.0%の人工海水を作成するには、人工海水のもと約30gを水に溶かして、溶液全体を1Lにしてください。ただし、人工海水作成に利用する水は、水道水を2~3日くみ置きして、塩素を抜いたものを利用してください。海産クロレラは塩素に弱く、水道水をそのまま利用すると、全滅することがあります。また、シオミズツボワムシの培養にお使いになる際は、人工海水の濃度を1.8~2.0%程度に設定して、海産クロレラを培養して下さい。海産クロレラは、人工海水の濃度が3.0%でも1.8%でもよく増殖します。

3 海産クロレラの培養液を作る

ここまでくれば、海産クロレラの培養液の作り方は、とても簡単で、2で作成した人工海水1Lに対して、「濃縮培養液-N1」「濃縮培養液-N2」からそれぞれ10mLをとって、加えるだけです。これで海産クロレラの培養液は完成です。このとき、濃縮培養液を加えることで、人工海水の塩分濃度は少し低下しますが、影響ありません。濃縮培養液-N1とN2は冷蔵庫に保管して下さい。

4 海産クロレラを培養する

培養液が完成しましたら、海産クロレラを入れて下さい。このとき、袋内のクロレラが沈殿していると思いますので、袋を数回振ってから、1Lの培養液に2袋とも入れてください。

蛍光灯による光の照射とエアレーションを行って、海産クロレラが増殖して、下の写真右側のように溶液が緑色になれば、そのうち500mLはペットボトルのようなふた付きの容器に入れて冷蔵庫に保管して、この先の培養時の種クロレラとして下さい。残りの500mLはワムシの二次培養などに利用して下さい。培養の目安は7~10日後です



5 2回目以降の海産クロレラの培養

2と**3**の手順で作成した1 Lの培養液に、**4**で冷蔵庫に保管しておいた海産クロレラをよく振ってから20m L加えて1回目と同様に培養します。